

時報

○東京顯微鏡學會常會

同會は豫報の如く、五月中旬開會の計畫なりしが、種々の事情に妨げられて延引し、遂に六月三十日午後二時より東京顯微鏡院講堂に於て開會、遠山、吉本兩博士を始めとして會員三十餘名出席、遠山博士開會を宣し、左の講演あり、遠山博士閉會の辭を述べ、午後六時三十分散會せり。

- 一、狂犬病の一例 小川 原 亮
 - 二、脚氣病原因の研究(第十八) 醫學博士 遠山 椿 吉
 - 三、發疹室扶斯病原研究醫學博士 二木 謙 三
- (追加)
脚氣の病理及治療 醫學博士 吉本清太郎

○日本結核豫防團體聯合大會

同會は前號既報の如く、六月二十一日午前十時より和歌山市會議事堂に於て開會、日本結核豫防協會よりは、北里理事長、遠山、杉山、細野三理事出席せる外、各地結核豫防協會及衛生團體等より多數代表者列席せり、當日來賓として鹿子木和歌山縣知事、和田和歌山縣警察部長、内野防疫官臨場、定刻先づ和歌山市結核豫防會長遠藤慎司氏開會の辭を述べ、次に内野防疫官内務大臣の祝辭を代讀し、更に鹿子木知事の祝辭あり、之れにて式を終り、引續き會議に移りて遠藤市長托されて議長席に就き、遠山日本結核豫防協會理事より事務報告あり、次で各種議案七件を議了し尙次回開催地を金澤市と決定して午後四時三十分散會せり。

翌二十二日は午後二時三十分より、同市縣會議事堂に於て、結核豫防講演會を開き、遠藤市長開會を宣し、次で遠山博士「之を防ぐの途あり」と題して、結核豫防に關する各般の注意事項を記述し、北里博士は「結

○北里研究所の歐文醫學雜誌

刊行

豫て計畫中なりし北里研究所の歐文醫學雜誌は、愈々過般其初號を刊行せられたり、其内容は、先づ北里所長の緒言を卷頭にし、宮島博士及與村學士の「赤蟲の生活圏」(英文)、志賀博士の結核治療法研究(英文)、稻田博士等の黄疸出血性「スピロヘータ」病(獨文)編引ドクトルの原蟲染色法(佛文)にして、頗る整然たるものなり、蓋し我國醫學界の爲めに慶賀すべき也。

○新潟縣の恙蟲病研究所開設

同縣にては昨今恙蟲病發生の時季となれるにより、古志郡上川西村に恙蟲病研究所を設立し、川村新潟醫專校教授は親しく同地に滞在して、専心研究に従事せらる、筈なりと云ふ、又林愛知醫專校教授も、例年の通り、同郡黒篠村に出張して研究せらる、由なり。

核と青年」と題して、特に青年の結核に對する心得ふべき事を懇切に演ぜられたり、聽衆約七百餘名、多大の感動を興へたりといふ。

○結核豫防劇

大日本結核豫防協會に於ては、既報の如く五月二十一日より七日間、東京丸の内有樂座に於て、結核豫防劇を開演せり、劇は左記筋書の如く全場六幕より成り、如何にも社會の實情に適し居れると、小山内舞臺監督及び東儀氏等の熱心なる演技により、毎夜相當の入場者あり、觀客に多大の感動を興へて、大なる成功を收め得たり、殊に第三幕の了れる時、協會理事長北里博士、理事北島、金杉、遠山、各博士は毎夜交替にて登場の上、豫防劇開演の主旨について、「結核は國民の大敵なること、結核は傳染病にして遺傳病に非らざること、結核は不治の病にあらざること」等につき、國民に強き印象を興ふるは筆よりも口よりも、劇に上すを最良の方法なりとして、茲に開演せる旨の挨拶を述べられ

又最後の幕、靜北療養院開院式の式場に於て、參列者一同遠山博士の結核豫防の歌を合唱せるが如き、頗る注意を惹きたりと云ふ。

○結核『回』る春』

豫防劇

文藝士 久米正雄氏作
文學士 小山内薫氏監督

第一幕 吉田家庭園の場
第二幕 相川家客間の場

第三幕 第一場 山口源吉家の場
第二場 大川端の場
第四幕 岡崎肺療院診療室の場
第五幕 岡崎肺療院庭園の場
第六幕 靜北療養所落成式の場

第三場 山口源吉家の場
第六幕 靜北療養所落成式の場

〔第一幕〕醫學士北村英夫は兼て人物を見込まれ、退職軍人吉田弘毅の令嬢靜子と婚約中なりしが、令嬢は新歸朝の少壯實業家相川一郎に戀せられ、女中お咲、親友輝子等に計りしが、心遂に動きて北村を棄つるに至る、棄てられたる北村は、恰もよし恩師岡崎博士の推鎮により結核豫防協會より留學研究を委嘱せられ、奮然としてその途に上る

〔第二幕〕第一幕より三年を過ぎたり、北村を棄て、相川に嫁ぎたる靜子は肺結核に罹り、又相川の事業辯は失敗を醸して、家庭頗る面白からず、女中お咲も實父の病氣により歸家し、家は唯だ相川の母満子の手によりて司配せらる、母は頑固なる姑にして、遂に一郎に勸めて靜子の離縁を計畫す

〔第三幕〕父の病氣の爲め實家に歸りたるお咲は、父の肺病の爲め、自分の許婚たる電氣職上には愛想をつかされ、又家主より利を以て誘は

る、等の苦痛に堪へ兼ね、一つには父の死を安らげん爲め、遂に死を決して家出す
醫師北村は獨逸より歸り、會々所用ありて、大川端を遊り、いりしにお咲が投身せんとするを認めて之を救ひ、共に伴はれてお咲の實家に到る

一方お咲の家にては頑固なる家主が巫女などを伴ひ來りて、無益なる祈禱に肺病を全治せしめんとすれど、手術半ばにして半死の病父は遂に起らず、伴はれ歸りし北村も施すべき術なきに至る、即ち孤兒となし靜子、寄邊なくしてお咲を訪ひ來り、やうやくにして慰め留めらる

〔第四幕〕岡崎博士の經營せる肺療院に於て奇しき運命の手は、遂に北村と靜子とを相會せしむ

〔第五幕〕靜子は自己の攝生と、既に看護婦となれるお咲の介抱と、北村醫師の醫療とによりて全快す、會々靜子を受く居たる伯母死し、遺産百萬を嗣ぐことになりしが、やうやくにして世人の頼み難きと、北村の同じ志望とに感じ、之を理想的肺療院の設立費に投せん事を乞ふ、北村之を納る

〔第六幕〕靜子の寄附によりて成れる靜北療養所落成し盛大なる落成式の中にすべては圓滿なる解決を見、あらゆるものに春は再び同り來る

○日本結核豫防協會の活動寫眞

同協會に於ては、結核豫防の趣旨を活動寫眞として各地にて映寫し、以て一般公衆の結核豫防に對する智

識を向上せしめんと企て、嘗て同會が刊行せる佐藤ドクトル、長田幹彦氏合著の「惡魔の生涯」を骨子とし、遠山博士脚色の下に、映畫を作製することとし、目下同博士は執筆中にあり、何れ完成の上は、各方面の申込に應じてこれを貸與又は讓渡の方法を講ずる筈なりと云ふ。

○全國上水道協議會

全國上水道協議會は、今年大連に開催の豫定なりしが、今日愈々關東都督府及南滿洲鐵道株式會社主催により、來る九月上旬を期して開會のことに決したりと云ふ、會期は約二週間とし、夫れより會議參列者一同を案内して、滿鐵沿線各地の視察をなさしむる計畫なりと云ふ。

○死屍死胎解剖並に保存

取締規則の制定

岡田警視總監は、七月十二日付警視廳令第十一號を

以て、死屍死胎解剖並に保存に關する取締規則を發布し、來る八月一日より施行の旨公布せり、今參考の爲め其全文を登載すれば左の如し。

●警視廳令第十一號

死屍死胎解剖並保存ニ關スル取締規則左ノ通定ム
大正六年七月十二日 警視總監 岡田文次

死屍死胎解剖並保存ニ關スル取締規則

- 第一條 死屍(全部又ハ一部以下之ニ同シ)又ニ死胎(全部又ハ一部以下之ニ同シ)ヲ解剖シ又ハ保存セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ死者ノ遺言書若クハ親族(死胎ニ在リテハ親族トナルベカリシ者)ノ承諾書(遺言書承諾書ナキモノハ其ノ事由ヲ願書ニ記載スルコト)及醫師ノ診斷書若ハ檢案書ヲ添付シ所轄警察署(島地ニ在リテハ警察官吏以下之ニ同シ)ニ願出テ許可ヲ受クベシ
- 一、出願者ノ族籍、住所、職業、氏名、生年月日及死者トノ續柄
- 二、死者ノ族籍、住所、職業、氏名、生年月日、男女別、死亡ノ場所及年月日時(死胎ニ在リテハ産婦ノ族籍、住所、職業、氏名、生年月日分娩シタル場所年月日時及死胎ノ男女別)
- 三、解剖又ハ保存セムトスル事由及解剖ニ在リテハ其ノ部位及剖檢スル醫師ノ住所氏名
- 四、解剖又ハ保存ニ著手スル年月日時、場所及ビ保存ニ在リテハ其ノ方法、前項ノ診斷書、檢案書ハ其ノ死胎ニ關スルモノニ限り、産婆ノ死産證書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得